令和５年度の研究構造図

学校教育目標

『心豊かに　たくましく生きる子どもを育てる』

めざす子ども像
- 思いやりのある子
- たくましい子
- 助け合う子
- よく考える子
- 進んでやる子

児童の実態
- 算数に苦手意識をもつ児童や、自分の考えを表現できない児童が多い。
- 題意を読み取れなかったり，学んだことを生かせなかったりする傾向にある。

研究主題

『一人一人が自分の考えをもち、表現し合う子どもの育成』

～いきいきと表現し伝え合う学習活動の充実を目指して～

仮説１：　基礎・基本の定着を図り、思考を整理しながら問題に取り組む授業を工夫することによって、一人一人が考えをもち、主体的に学習に取り組むことができるだろう。

仮説２：自己表現方法を工夫することによって、他者と関わりながら思考を深め、算数の楽しさやよさを実感することができるだろう。

基礎基本の定着
- 既習事項の振り返り
  （四則計算・単元に必要な内容）
- 学習のきまり（話し方・聞き方）
- 指導形態の工夫（TT・少人数・習熟度）

思考を整理するために
- 数量や図形の関係に着目させるための手立て
  （方法の工夫，板書や記号，キーワード）
- 根拠を基に論理的に思考を表現させる手立て
  （話し方，ノート指導　など）

いきいきと伝え合うための工夫
- 「伝えたいことをまとめながら話す」　手立て
- 相手の意図をとらえ、自分の考えと比べながら聞く　手立て
- 表現方法を工夫し、説明し合いながら考えを深める　手立て

（道具、言葉や数、式、図、表、グラフ、数直線、ＩＣＴ活用など）

表現し合う

解けそう・できそう

算数の楽しさを実感

目指す子どもの姿

○自分の考えをもち、主体的に表現できる子ども
（自分なりの考えをもつ・友達の考えと比較することができる）
（考えたことを、説明できる）

○いきいきと表現し合い、学ぶ楽しさやよさを実感できる子ども
（表現方法を工夫できる・工夫して考えをまとめることができる）